

取組名称	お互いさまの街ふくしま			団体設立後の経過年数	17年目
応募取組主体名称	特定非営利活動法人チームふくしま	活動地域	福島県	応募取組の活動年数	3年目
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

「福島を同情の街から尊敬の街にする」という志半ばに他界した弊社副理事長・吉成洋拍の遺志を団体に引き継ぎ、お互いさまチケット、福祉型無人子ども食堂・コミュニティフリッジひまわり、みんなの食糧庫、お互いさまアートなどの取組を行っている。福島は震災を通して「困った時はお互いさま」と助け合う大切さを知った。社会課題を地域で解決してすべての人々が生きやすい街づくりを進めることで、震災時に福島が受けた恩を全国・次世代へ送っている。

実績の要旨

見知らぬ誰かに対してのチケットの購入やメッセージの記入、物資支援などの様々な形で恩送りすることで、「困った時はお互いさま」という気持ちで社会課題を地域で解決する、全ての人が生きやすい街づくりを先駆けて担っている。事業を通じて子どもの健やかな成長を支え、生活困窮者の負担が軽減し、虐待防止・犯罪抑制・社会的孤立を防止している。チケットは2024年7月現在福島県内48ヶ所、全国で65ヶ所導入されていて、今後台湾でも2か所で導入予定である。

取組評価の要旨	環境への貢献	個人・企業などからコミュニティフリッジへ物資の寄付をいただくことでフードロスやごみの削減に繋がる。
	社会・経済への貢献	生活困窮者や障がいのある方々をはじめ、全ての人が生きやすい社会を地域住民の手で創っていくことができる。
	地域資源の活用	ご共感下さる方の持ちえる地域資源を、困っている他の誰かへの思いやりの表れとして活用させていただいている。
	普及・汎用性	お互いさまチケット導入研修の実施や、お互いさま事業の視察の受入、webサイトやSNSでの広報をしている。
	革新・ユニーク性	恩送りによる持続可能な生きやすい街づくり、生活困窮者と障がい者とが互いに必要としあう社会モデルにある。
	継続性	コミュニティフリッジにマンスリーサポーター制度を設け、需要に対する供給不足を補うための寄付金を募っている。

展望の要旨

チケットの県内100か所導入とフリッジのマンスリーサポーター制度導入を経て、福島をお互いさまの街にする。